

超覚寺 春の行事のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
 ありがたく存じます。

さて、下記の通り法要・法座を勤め修いたしますので、
 ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(_ _)>

◎ 2019年 春季彼岸会法要

3月21日 (木・祝) 13時～ 勤行・法話：住職

14時～ おぜんざい休憩
 14時20分～

高座(節談)説教：祖父江佳乃師

例年通り、人氣布教使の祖父江佳乃師(愛知県名古屋市中区宝町4-16)に御出講いただきます。私は節談説教を学び始めて5年ですが、なかなか超覚寺で披露できていません。準備や練習が相当必要なのですが、そういったことを微塵も感じさせない祖父江先生の背中から色々なことを学ばせていただき、良き師匠に出遇えた慶びをしみじみ感じております。

◎ 真宗大谷派広島別院明信院 (東別院) 法話会

住所はフジグラン広島からすぐの「広島市中区宝町4-16」です。

・定例法話：毎月5日の14時～15時

真宗大谷派僧侶の法話があります。

・春彼岸会

3月22日(金)14時～16時

広島東別院での法要は、准堂衆という専門職の僧侶を多数擁し、御本山並みの勤行になります。御都合のよろしい方は是非お参りください。



・1/15 広島ゆかりの茶道「上田宗箇流」のお家元での初釜。

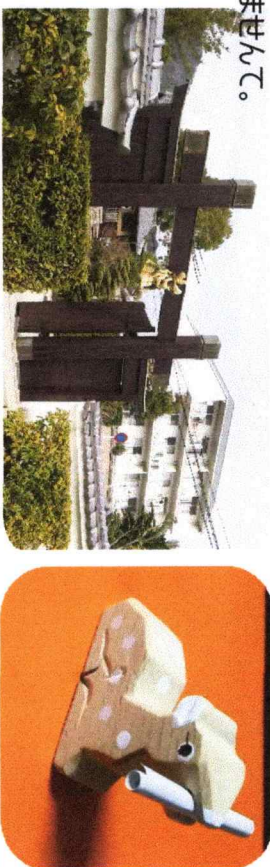
上田家と超覚寺は、共に1619年8月8日に浅野家について広島入りしました。そういう御縁で(約20席の中の1席の)正客を務めさせて頂いております。こちらの流儀の作法も何も分からない私ですが、私が無知をさらけ出して恥をかくような流れには絶対ならず、お家元のそういう御配慮が嬉しかったです。

同じ席には30名いましたが、私が最年少。でも、そういう縁あるお寺の住職だから正客を務めさせてもらい、たぶんそれで他の方々には納得しているんだろうなあ。私の実力や才能ではなく、たまたまこの肩書のおかげで、その役目を頂けると…。

このような場に来ると思うのは、伝統とは立場だなあと。超覚寺は原爆で血筋が絶えてしまい、私は在家出身ですから、そういう血筋でないことは知っている人は知っています。でも、超覚寺の住職を拝命したからには、そのように振舞うことを求められ、また、そう振舞うことが「法義相続・寺院護持」につながるのも確か。

何も知らずに浄土真宗の大谷派の、そういう歴史のお寺に入ったからには、そういう伝統も受け継がねばなりません。私はグレッシーヤーも何も分からず中途入寺した身で、今さらヒシヒシと重責を感じています。でも、生まれ育ちがそうならば、血筋ゆえの御苦労は「いさい頃」から相当なんだろうというの、何となく分かってきました…。

なお、この木彫りの鹿は春日大社のおみくじです。お家元の奥様が春日大社出身ということで恒例です。「お坊さんだから、おみくじなんかしないよ」なんて無料なこと(は)しません。



◇ 寺院護持費 (墓地管理費) について

遠方の方々は、どうぞ下記口座をご利用ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

他金融機関からゆうちょ銀行へ振り込まれる際は、次の内容をご指定ください。

【店名】五一八 (読み ゴイチハチ)

【店番】518 (普通預金) 5577060

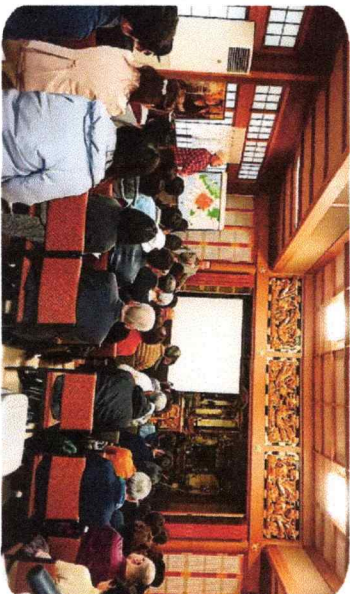
◆ 寺業報告

・2019/1/1「修正会」

一年最初の法要。のべ26名がお参りくださいました。法要の時間以外でも本堂を解放していたので、多くの方々がお参りくださいました。お陰さまで住職坊守も大病無く、子どもたち6人もケンカしつつも健やかに育っております。

今年もよろしく願っています。

・1/6「原爆の語り部～被爆体験証言者の証言～」



毎月6日、流川のBARで開催されていますが、この日は日曜日だったので、超覚寺で開催されました。約70名の方々に参加されました。病からも死からも逃れられない我らですが、核で病気になるのも死ぬのも嫌です。

・「400年前の過去帳撮影」

浅野家広島入城400年に合わせて、超覚寺でも入国当時から過去帳の記述の中から、歴史の変遷をご覧頂くよう準備に入っています。この度は上田宗箇流お家元に保存してある上田家から超覚寺に当てられた手紙の撮影をさせて頂きました。1700年代の手紙ですが皆様に見ていただけるよう合わせて準備を進めています。



◎ 第5回法灯リレー法座【『愛』解放への祈り】

講師：叡 漢子(ユコジヤ)師 (沖縄在住僧侶)

今年も大谷派寺院5カ寺合同の法座を開催いたします。

どなた様も ご都合の良い日時・お寺へ是非お参りください。

4月4日(木) 13時30分～

明正寺 (福山市神辺町字上御領665)

5日(金) 13時30分～

光円寺 (福山市大門町津之下792)

6日(土) 10時～12時

超覚寺 (広島市中区八丁堀5-2)

13時30分～

円光寺 (広島市中区白島町16-18)

7日(日) 13時30分～

◇ 2019(平成31)年の御法事をご確認ください。

・2018(平成30)年：1周忌 ・2017(平成29)年：3回忌

・2013(平成25)年：7回忌 ・2007(平成19)年：13回忌

・2003(平成15)年：17回忌 ・1995(平成7)年：25回忌

・1987(昭和62)年：33回忌 ・1970(昭和45)年：50回忌

お勤めは御自宅でもお寺でも大丈夫です。御命日が近づいても連絡の無い場合には、ハガキや寺報にて御案内いたします。念のため、境内通路脇の案内板に該当者名を掲示してありますので、墓参の際に御確認ください。

法事に掛かる時間は、読経から法話まで約30分です。複数の法事を続けてお勤めする場合は約15分ずつ時間が延びます。小さいお子さまにとっても大切な御法縁になりますから、ぜひ同席くださいますようお願いいたします。

年回法事が無い方も、**月命日・祥月命日・お彼岸・お盆**には、お仏壇やお寺の阿弥陀様にお参りしましょう。階段が辛く2階本堂まで行き難い方は、1階の仏間でも法事ができます。境内駐車場も7台までは大丈夫です。

お寺での法事は、ゆっくりお参りいただけるよう間隔に余裕を持たせて、開式時刻は**10時・11時半・13時・14時半**にしております。予約状況によっては時刻の変更希望も可能です。その他ご不明の点はどうぞ何なりとお問い合わせください。

☆『没イチ』考

「没イチ」という言葉をご存知ですか？ 1 度離婚した人を「×1 パツイチ」と呼ぶように、近年、配偶者を亡くし独り身となった人を「没イチ」と呼ぶそうです。シニア生活文化研究所所長の小谷みどりさんは、昨年『没イチ パートナーを亡くしたからの生き方（新潮社）』という本を上梓しました。小谷さんの夫は42歳の若さで突然死されました。健康診断ではそれまで何の問題も無く、前日まで普通に生活しており、当日の朝、ベッドの中で亡くなっていました。金曜日までは普通に出勤していたのに、月曜日に遺骨になっている。この残酷な現実を最初は受け入れられませんでした。夫の死後、多くの人から「悲しいでしょう？」という言葉が掛けられ、世間の中で没イチの人は常に悲しそうな態度を取らなければならぬワッシュシャーにさらされる、ということに初めて気づきました。動揺を抱えながらも気丈に仕事をこなしていた小谷さんに対して「死別して間もないのだから、楽しそうにしない方がいい」と言ってくる人もいたそうです。

「配偶者と死に別れた人は、笑うことも楽しむことも許されないということに驚きました。結婚している人は誰でもその可能性があると思うのですが…」小谷さんは死生学や葬送の問題に関する著書も多く、その分野の第一人者ですが、このような自身の経験をきっかけに「配偶者と死別した人のライフスタイル」にも興味を持つようになりました。「Dead or 死別」、確かに夫婦生活が長く続けば、いずれどちらかが「没イチ」になることになります。

2015年の国勢調査によると、40歳以上の没イチ人口は全国に約955万人。今後は社会全体の高齢化に伴い、益々増えていくでしょう。しかし今まで没イチの人々のその後の生き方が、世間の中で広く語られることはほとんどありませんでした。

「夫婦の人たちは誰でも没イチになる可能性があります。その時に備えて普段からできるだけ自分で出来る範囲を広げておくことが大切です。女性は順応性やコミュニケーション能力が比較的高いので、もし夫が死んだとしても、その後の生活にはあまり困りません。しかし、男性は女性に頼りっきりで、没イチになった途端、自分の服のサイズすら分からなくなったりする人もいます。」

♪昔は高齢者の大半が三世代同居をしていましたが、現在その割合は一割程度しかありません。これは没イチになった人のほとんどが、現在独り暮らしをしていることを意味しています。パートナーを亡くしたからの突然の独り暮らし。この生活の変化に対応できず、引きこもりになる人も大勢いるそうです。

小谷さんは、講師を務めている立教セカンドステージ大学で、2012年に「没イチの会」を結成しました。この「没イチの会」は、没イチになって発生する問題をみんなで話し合い、それぞれが悩みを一人で抱え込まずに共有できるのが良いところ。「没イチ」と一言で言っても、人によって置かれている状況や精神状態は実に様々です。また「没イチ」という言葉に対して嫌悪感を覚える人もいます。先日、歌舞伎役者の市川海老蔵さんが「没イチ」という言葉に嫌悪感を持つと発言したニュースが流れました。小谷さんは「没イチ」という言葉に対して嫌悪感を抱く人が少なくないことを理解しており、没イチという存在が社会でタナー視されている現状に一石投じたいという思いから、会の名前にあえて「没イチ」と付けたそうです。「没イチの『没』は捨てるという意味ではなくて、没年とか戦没の没のことで、本来は死を言い換えた中立的な言葉なんです。『没』という言葉の意味を知らない人が多いようで、ボツになったと捨てる意味で捉えて、死んだ人に失礼だという意見が寄せられることもあります。」

「没イチの人々は地域にたくさんいらっしゃいます。そういった人々が楽しく緩やかにつながれる場所があったらいいですね。お寺がそのようなコミュニケーションの中心になれば、もっと良いかも知れません。」三世代で同居することがほとんどなくなり、「没イチ＝独り暮らし」を意味する時代。パートナーを亡くしたからの生活は、決して楽なものではありません。没イチになった人生を一人ですべて生きていくのは、今後当事者だけでなく、日本社会にとっても大きな課題となるでしょう。没イチの人々が緩やかにつながれる共同体が将来全国各地に生まれてくるかも知れません。

（「唯」132号より加筆転載）

このような状況はお葬式も出来ない可能性があるのですが、超覚寺は行政書士さんと組んで、「死後事務委任」だけでなく「生前事務委任」や「成年後見」もセットでご依頼を受けております。